

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐむ教育の推進

<p><b>1 一人一人の児童生徒の尊重</b></p>	<p><b>2 友達への思いやり</b></p>	<p><b>3 道徳・心の教育の充実</b></p>
<p>学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。</p>	<p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)</p>
<p>【学校から】①昨年度比で、「4」の割合が保護者で2%高くなっている。「1」の割合が児童で0%である。一人一人を大切にしたい指導や対応については、学習の場や様々な活動の場で、全教職員で児童のよさを認めることを心がけている。また、児童の強みやよさを紹介するためのカード等に全校で取り組み、児童同士が互いを認め合う場も大切にしている。②昨年度比で、「4」の割合が保護者で4%高くなっている。「1」の割合が児童で0%である。日常生活での観察、毎月のなかよしアンケート等、児童の実態把握に努め、児童が友達となかよく関わられるよう配慮している。児童の中に1%「無回答」がみられる。なかよくできていない原因はどんなところにあるのか、無回答に込められている思いは何か、児童の心に丁寧に寄り添っていききたい。③昨年度比で、「4」の割合が保護者で1%高くなっている。人権教育の推進と道徳教育の充実に重点項目にあげ、主体的、対話的で深い学びのある道徳の授業改善を校内研修で取り組んできた。保護者へは、学校より、学年、学級通信、道徳通信等で取組や授業の様子を伝えてきた。児童は、挨拶運動、落ち葉拾いボランティア等に進んで取り組み、学校教育全体を通して、道徳教育が推進されている。</p>		

②確かな学力を育む教育の推進

<p><b>4 意欲的な学習態度</b></p>	<p><b>5 授業力向上</b></p>	<p><b>6 ICT活用</b></p>
<p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<p>先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。</p>
<p>【学校から】①昨年度比で、保護者の「4」と「3」を合わせて1%増えており、逆に「1」の割合が0%だったことから、授業参観や学校便り等様々な通信を通して授業の様子を発信していることが理解に繋がっていると考えられる。②児童では「4」「3」の割合が昨年度92%から本年度95%、保護者では昨年度94%から97%に伸びている。昨年度のテーマを発展させ、校内研修で「主体的・対話的で深い学びのある授業づくりを目指して～道徳・外国語活動を中心とした授業改善～」のテーマの下、更なる授業改善に取り組んでいることの結果であると考えられる。③今年度は電子黒板等に加えてタブレット端末の導入により、教職員のみにならず児童も用いる機会が大幅に増えた。そのため、本年度も保護者・児童・教職員全てにおいて数値の上昇が見られた。特に、昨年度課題であった保護者の意識が3と4の評価合わせてプラス8%と大きく向上している。これらは、授業参観や学年通信・学級通信、学校より等でのICT活用の様子が発信したことの効果であると考えられる。</p>		

③健やかな体を育む教育の推進

<p><b>7 健康づくり</b></p>	<p><b>②特別支援教育の推進</b></p>
<p>子どもは、好き嫌いをなく食事をして適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p>	<p><b>①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実</b></p>
	<p><b>8 児童生徒理解</b></p>
<p>【学校から】①今年度も保護者・児童ともに「3」「4」の評価が80%を超えており、食事・運動・休養に熱心に取り組んでいたことが分かる。教職員の意識は、「3」「4」の評価が87%から94%に7%増えた。学校保健委員会などで、SNSの活用や不登校、スマホの時間などを意識し、取り組みのようとした結果と考えられる。しかし、児童の意識としては、8%下がっているという結果になったのは、第2回の学校保健委員会がインフルエンザで全体実施できなかったことも要因として考えられる。</p>	

①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

<p><b>9 いじめや問題への対応</b></p>	<p><b>10 学校の支援体制</b></p>
<p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。</p>	<p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>
<p>【学校から】①昨年度比で児童は「4」の割合が69%から65%と4%減っているが、「3」の割合が21%から30%と、9%増えており、「3」「4」の割合が全体でも95%（昨年90%）に達している。よさを認められていると実感できている児童が確実に増加していると考えられる。保護者も「4」の割合が46%から50%と4%増えている。子どもが活躍し、認められる場をつくり、自尊感情を高め、保護者にも積極的に子どものよさを伝えるよう努めていきたい。②いじめや問題行動に対する児童及び保護者の「3」「4」の評価は、95%、89%と前年度と比べ同数値であった。多くの児童・保護者が肯定的に捉えている。しかし、5%の児童、11%の保護者が、いじめや問題行動への対応へ不信感を持たれていることを真摯に受け止め、いじめを許さない雰囲気づくりをおこなうとともに、いじめや問題行動の解決に向け、迅速な対応、教育相談など丁寧な連絡を行っていく。③保護者、教職員ともに「3」「4」の割合が、90%を超えており、個に応じたきめ細やかな支援や組織としての支援体制が充実していると考えられる。しかし昨年比で「1」「2」と不十分と感じている保護者も横ばいであることから、保護者のニーズに応じた支援体制の充実を心がけていきたい。</p>	

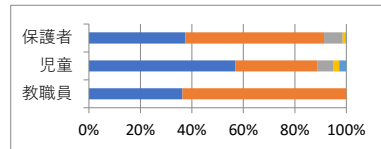
①子どもたちの身近な安全対策の充実

<p><b>11 安全と事故防止</b></p>	<p><b>②最適な学習環境の整備</b></p>
<p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。</p>	<p><b>12 施設・設備の安全管理</b></p>
<p>【学校から】①児童・教職員ともに、「そう思う」の回答において昨年度と大きな違いは見られなかった。一方で、保護者は「そう思う」が3%減り、「どちらかというそう思う」が5%増えている。お引越訓練や避難訓練等の実施は昨年度と同様と考えているが、家庭へのお知らせという点で不十分だったと考えられる。児童への指導に加えて、学校の教育活動についてさらに周知をしていきたい。</p> <p>【学校から】②昨年度と比べると、保護者・児童ともに、「そう思う」「だいたいそう思う」の合計は、ほぼ横ばいの結果となっているが、教職員は7%増えている。この結果は、毎月の安全点検を丁寧に確実に実施し、危険箇所の修繕等をすぐに行っていることによるものと考えられる。今後も定期的あるいは臨時の安全点検等を入念に行い、事故の未然防止に全力で取り組む。また、本年度は、引き続き児童の危険回避能力の育成に向けた安全教育の充実に取り組み、安全に関する意識の向上に努めていきたい。</p>	

### ③家庭・地域社会との連携強化

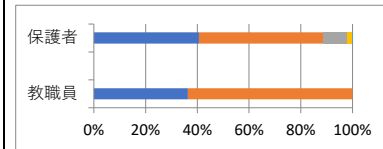
#### 13 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



#### 14 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

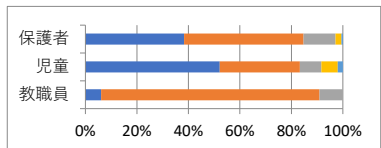


⑩保護者については、昨年度比で「4」の割合が2%増え、教職員は「4」「3」の割合が100%である。教育方針・目標が教職員に共有化され、学校HPを活用した最新の情報発信、学校便り、学年・学級便りの充実、懇談会等での周知に努めた成果であると考えられる。児童には、学校生活での実践の場と関連付け、学年に応じてわかりやすく伝えていきたい。⑪保護者の「3」「4」の割合は89%と昨年度比でほとんど変わっていないが、教職員は「3」「4」が100%であり、保護者と若干の認識の相違がある。昨年度比で「1」「2」と不十分と感じている保護者も11%と横ばいであることから、保護者や地域のニーズを把握し、家庭や地域とより一層連携を深めながら教育活動の推進及び周知に更に力を注いでいきたい。

### ⑧本校の教育

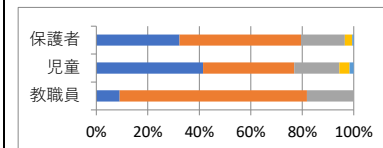
#### 15 家庭学習

子どもは、宿題や家庭学習ができていると思いますか。



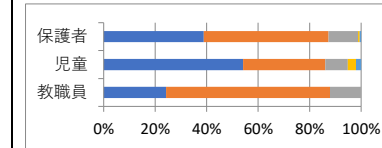
#### 16 早寝・早起き・朝ごはん

子どもは、「早寝・早起き・朝ごはん」ができていると思いますか。



#### 17 あいさつ

子どもは、あいさつができていると思いますか。



【学校から】⑫昨年度比で見ると「4」及び「3」の割合が保護者で1%、児童で4%減になっているのに対して、教職員の割合は87%から本年度は91%で4ポイント上昇している。課題の工夫や家庭への啓発や連携が図られ、家庭学習に対する意識が高まったのではないかと考えられる。⑬「心スッパリ、体スッパリ、頭スッパリ、ゲームやスマホと上手に付き合おう。」をテーマに、メディアとの関わりを見直す取り組みをすすめた。ゲーム等の10分を、運動や団らん、読書や早寝に充てて実践することで、健康的な生活の大切さを実感してほしいと考えた。児童の意識が昨年度より下がっていることは、全体での学校保健委員会が実施出来なかったことも要因の一つとして考えられるので、児童が実感出来るような結果の提示をしていきたい。⑭あいさつに対する児童及び保護者の「3」「4」の評価は、86%、87%と前年度と比べほぼ同数値であった。多くの児童があいさつについて、その目的をしっかりと考え、相手を思いやるあいさつができてきている。しかし、心的要因からあいさつがしなくてもできない児童や相手の立場に立ったあいさつが難しい児童がいることをしっかりと受け止め、道徳で心構え、特別活動でその方法を学習していかせたい。そして、教職員があいさつの励行を継続して行うことで、さらなるあいさつの推進が図れると考える。

### 来年度の具体的な取り組みについて

○学校教育活動の様々な場面で、教職員全体で情報を共有しながら児童理解に努めていく。道徳は教科となったので、教職員で共通理解、共通実践をし、授業や児童の様子を学校だより、学年、学級通信、道徳通信等、様々な機会を通して、保護者へ伝えていくようにしたい。  
 ○一昨年度から学校評価における課題とらえていたICT活用については、今年度は大きな伸びが見られる。授業参観等での保護者の理解が進んだこととともにタブレット導入による教職員の活用実績そのものが上がっていることに起因している。  
 ○健康づくりはすべての学校生活、社会生活の基盤となるものでもある。今年度健康づくりで取り組んできた「SNSやテレビや動画、スマホの時間などの見直し」をもう一度子どもたちとともに振り返り、「お手伝い」「団らん」「運動」「読書」「学習」に有効的に活用していくことをより一層推進していく必要がある。健康づくりを推進していくために、学校保健委員会を中心として、学校・家庭・地域が連携を深める必要性を教職員は感じている。それが13、14項目の教職員評価100%に表れている。学校からの発信に加え、双方向のやりとりがとれる機会や手段を考えていく。

### 学校関係者評価

○「早寝・早起き・朝ごはん」「あいさつ」など、知識だけではなく、生きてはたらく力や総合的人間形成に教育の柱を置いている学校の取組が素晴らしいと思う。学校内の雰囲気が良い。  
 ○学校、PTA、地域との関係が良好と思う。子どもたちは皆に見守られて成長していると感じる。防犯の立場から、下校時の見守りを更に考えるとよい。  
 ○今、取り組まれていることを継続していただきたい。学校、家庭、地域の方と連携しながら、中学校でも引き継がれるように維持できたらと思う。  
 ○校長先生による学校便り「春竹の子の歩み」から、年間の子どもの歩みがとてもよく伝わってくる。掲示物などからは、先生方の授業研究に対する取組がわかり、子どもたちへの言葉かけも聴こえてくるような感じがする。  
 ○学習発表会などは、それまでの授業を踏まえ、学習内容や経過を伝えようと工夫されている。表現豊かで、先生方を交えて笑顔が溢れている。学級ごとの移動や入退場のスムーズさにも、子ども一人一人の心がけを感じた。日頃の先生方の指導の現れだと思う。  
 ○先生方は十分やっていると思う。家庭の理解がさらに深まり、先生方の業務改善が進むことを願う。働き方改革の具体的な成果が気になるところである。  
 ○土曜授業の開催については、小学校と中学校で確認され、重ならないようにすると参加しやすい。  
 ○施設の面で、体育館の冷暖房があるとよいのだが。